

た。発症5年後、CT では明らかな異常を認めないが MRI では中脳に T₁、T₂ の延長した部位が認められた。症例 2 : 39才女性。症例 1 と同様、治療後症状とともに CT の異常所見も消失した。発症2年3ヶ月後、MRI で以前 CT で認められた中脳の病変に一致した部位が、T₁、T₂ の延長した部位として描出された。これら2例の MRI での異常信号域がいかなる病理学的変化を反映したものであるのか、その可能性について考察を加える。

A-67) von Recklinghausen disease に合併した頭蓋内横紋筋肉腫の1症例

隈部 俊宏・金子 宇一 (大宮赤十字病院)
石橋 孝雄 (脳神経外科)

今回我々は von Recklinghausen 病の患者で、頭蓋内横紋筋肉腫を生じた症例を経験したので報告する。<症例>21歳、男性。頭痛を主訴とし、前頭葉症状と脳圧亢進症状を認め入院した。von Recklinghausen 病と診断され、CT にて前頭葉内に嚢胞を有する腫瘍を認め、昭和62年5月26日腫瘍摘出術を施行した。その後放射線療法、化学療法にも拘らず、9カ月という短期間に前頭葉内腫瘍の再発を繰返し、計3回にわたる腫瘍摘出術を施行した。初回手術時には腫瘍組織は、meningioma, neurofibroma, astrocytoma 等疑われる様な比較のおとなしいものであったが、再発を繰返す度に異型性を増し横紋筋肉腫としての性格がはっきりしていき、最終的に右頭頂葉内、脳室内と脊髄に多発性に転移を来し、昭和63年2月4日死亡した。<考察> von Recklinghausen 病に悪性神経鞘腫が高率に発生することが知られているが、腫瘍性の横紋筋細胞を合せ持つ神経鞘由来の腫瘍に対して“Malignant Triton Tumor”と呼ばれている。本症例もこの範中に入るものと思われるが、頭蓋内に生じた症例は稀であり報告する。

A-68) 脳実質内類上皮腫の1例

安藤 彰・蛸名 国彦 (青森市民病院)
 (脳神経外科)

類上皮腫は通常、小脳橋角部、視交叉部、更には脳室と関連のある部位に発生するが、最近私達は右頭頂葉脳実質に脳室とも全く関係なく発生した類上皮腫を経験したので報告する。患者は37歳の男性、主訴はけいれん発作である。当科入院時の CT で右頭頂葉に低吸収域を認めた。この低吸収域は、周囲との境界は鮮明で、内部はほぼ均質であり、造影剤による増強効果は全く認めなかった。脳血管撮影では、特別の異常所見無く、I¹³²

による脳血流 SPECT では CT 上の低吸収域に一致して欠損が認められ、その周囲の脳血流も約10%低下していた。手術時の肉眼所見では、腫瘍は完全に脳実質内に存在し、やや硬く、表面は白色調、顆粒状であり、一部に所謂真珠腫を思わせる光沢を認めた。大きさは 30×30×25mm、内部は乳白色のコレスチリン様物質で満たされていた。腫瘍を全摘出したが、脳室系とは全く連絡を認めなかった。病理組織学的には、被膜に重層扁平上皮組織を認め、類上皮腫の所見であった。

稀な部位に発生した類上皮腫の一例を文献的考察を含めて報告する。

A-69) 頭蓋内 Mesenchymal chondrosarcoma の1例

白崎 直樹・兜 正則 (福井医科大学)
久保田紀彦・林 実 (脳神経外科)
杉原 洋行 (中央検査部病理)

Sensory march にて発症した左前頭部 mesenchymal chondrosarcoma の1例を報告する。症例は38歳、女性。昭和62年12月1日、2日に、発作性に2分間ほど続く右顔面、舌、右手のしびれ感を認めた。12月9日当科受診。頭部単純写にて左前頭部に約3cmの石灰化があり、この部は CT では heterogeneous な石灰化した腫瘍として認められ、造影効果ははっきりしなかった。また腫瘍周囲の edema はほとんど見られなかった。脳血管撮影では、腫瘍陰影は明らかでなく Rolandic vein の圧迫所見のみであった。12月22日、手術をおこなったが、その時の所見では腫瘍は一部硬膜を貫き頭蓋骨への浸潤を認めた。En bloc に摘出できたが、肉眼的に腫瘍は骨様の部分と弾性硬な部分とで構成されており、病理学的には、chondrosarcoma であった。この腫瘍は主に扁平骨に発生する比較的稀な腫瘍であり、若干の文献的考察を加え報告する。

A-70) 頭蓋骨 histiocytosis X の2例
— MRI 所見を中心に —

佐々木 尚・飯塚 秀明 (金沢医科大学)
山本 信考・中村 勉 (脳神経外科)
郭 隆彦・角家 暁 (金沢脳神経外科病院)
佐藤 秀次・伊東正太郎 (井波厚生病院)
 (脳神経外科)
村本 清

頭頂骨に発生した histiocytosis X の2例を経験したので、その MRI 所見を中心に報告する。症例 1 : 10歳女、右頭頂部に有痛性の皮下腫瘤があり、頭蓋 X-P